



6月度「スカパー！サヨナラ賞」受賞選手発表

セントラル、パシフィック両リーグが制定する月間「スカパー！サヨナラ賞」(協賛:スカパーJSAT株式会社)の6月度受賞選手が決定いたしました。受賞選手には、スカパーJSAT株式会社よりトロフィーと賞金 30 万円が贈られます。

～ セントラル・リーグ 受賞選手 ～

マット・マートン (阪神タイガース) 初受賞

マートン選手は、6月9日(日)甲子園球場で行われた対千葉ロッテ4回戦、2対3の1点ビハインドで迎えた9回裏無死一塁の場面で、相手・守護神から左翼席に飛び込む逆転サヨナラ本塁打を放ち、4時間を超える総力戦にピリオドを打ちました。6回途中3失点で降板した新人・藤浪投手の負けを阻止するとともに、チームを再び首位に押し上げる価値ある一発となりました。なおマートン選手は、6日(木)の対埼玉西武戦(甲子園)で来日初のサヨナラ本塁打を放っており、9日の一打が月間2本目のサヨナラ本塁打でした。

～ パシフィック・リーグ 受賞選手 ～

高橋 信二 (オリックス・バファローズ) 初受賞

高橋選手は、6月28日(金)京セラドーム大阪で行われた、対東北楽天8回戦、1対2で1点差を追う9回裏、二死満塁の場面で代打出場。0ボール1ストライクからの2球目に、右翼手の頭上を越える逆転サヨナラ二塁打を放ちました。この一打は、今シーズン、パ・リーグ初の代打逆転サヨナラ打となりました。高橋選手は北海道日本ハム在籍時の2008年以来、5年ぶり3度目のサヨナラ打になります。

月間「スカパー！サヨナラ賞」は、月間を通じて最もインパクトのあるサヨナラ打を放った選手に贈られる賞として昨シーズン制定されました。スカパー！は、2006年シーズンから「プロ野球セ・パ両リーグ公式戦全試合、プレイボールからゲームセットまで放送」(※トップ&リレー、録画放送を含む)を掲げており、「試合終了最後の1球まで真剣勝負をお届けするスカパー！」から多くのファンに、プロ野球中継最大の魅力を伝えることができ、それがプロ野球界発展の一助となると考え、本賞へ協賛しています。また、同様の趣旨のもと2009年シーズンから、レギュラーシーズンを通じて最も劇的なサヨナラ本塁打、またはサヨナラ安打を放った選手に贈られる賞として「スカパー！ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞」を制定しています。



(参考)過去の受賞選手

【月間「スカパー！ サヨナラ賞」】

2012年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3・4月度	中村 紀洋 (横浜DeNAベイスターズ)	田中 賢介 (北海道日本ハムファイターズ)
5月度	森野 将彦 (中日ドラゴンズ)	A.バルディリス (オリックス・バファローズ)
6月度	和田 一浩 (中日ドラゴンズ)	M.ホフパワー (北海道日本ハムファイターズ)
7月度	石原 慶幸 (広島東洋カープ)	柘田 慎太郎 (東北楽天ゴールデンイーグルス)
8月度	阿部 慎之助 (読売ジャイアンツ)	柳田 悠岐 (福岡ソフトバンクホークス)
9月度	新井 良太 (阪神タイガース)	松井 稼頭央 (東北楽天ゴールデンイーグルス)

2013年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3・4月度	福留 孝介 (阪神タイガース)	松田 宣浩 (福岡ソフトバンクホークス)
5月度	畠山 和洋 (東京ヤクルトスワローズ)	浅村 栄斗 (埼玉西武ライオンズ)

【スカパー！ ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞】

受賞年	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
2009年度	亀井 義行 (読売ジャイアンツ)	井口 資仁 (千葉ロッテマリーンズ)
2010年度	天谷 宗一郎 (広島東洋カープ)	小久保 裕紀 (福岡ソフトバンクホークス)
2011年度	長野 久義 (読売ジャイアンツ)	松田 宣浩 (福岡ソフトバンクホークス)
2012年度	和田 一浩 (中日ドラゴンズ)	中田 翔 (北海道日本ハムファイターズ)

以上